

笠間市社会福祉協議会

北川根支部だより

第157号



発行日 2025(令和7)年10月16日
 発行 笠間市社協北川根支部
 編集 北川根支部広報委員会
 印刷 (有)シーエス



梅雨明けの昼下がり、市役所での用事を終えたあと、少し時間ができたので、道すがらの友部図書館に立ち寄りしました。
 入口近くの広いフロリングの室内では、壁いっぱいには絵が並んでおりました。これは、友部絵がみ同好会の皆さんによる恒例の展示会で、この日から開催されたようです。
 毎年楽しみにしているこの展示。今年も、作品一つひとつに込められた想いや背景が、ほのぼのと心に沁み、家族など、身近な題材がやさしい色合いと温かい言葉で描かれており、日々の暮らしのなかにある一ありが



絵てがみに込めた感謝の心

副支部長 小林 吉彦



とうの感謝の気持ちが丁寧な表現されているように思います。
 展示作品は、新聞紙半分ほどの大きさや、はがきサイズの紙面に描かれていました。その中に、赤いつぼみのチューリップ一輪の絵に「家族への感謝」の文字が寄り添った作品があり、素朴で簡素ながら、家族への思いがしつかりと伝わってくるように、印象に残りました。
 ある著名な方が「感謝とは、親切にしてくれた人や支えてくれた人に向けての心の働きだ」と語っていたのを、確かに、周囲の人との関係を深め、快く日々の生活を送るうえで、感謝の気持ちとはとても大切なもの、感謝の気持ちは私たちの日常生活に、空気が、水、食べ物、家族や近所の方々、そして社会全体に支えられていきます。そのことを思うだけで、自然と感謝の気持ちが湧いてきます。
 体調がすぐれないときなどは「感謝しなさい」と言われても、素直に

当面の行事
(予定)

- ①女性部福祉ミニバザー
10月25日(土)
於. 旭ヶ丘団地内
- ②合同茶話会
10月23日(木)・11月12日(水)
行先. ガラス工房シロカ(北茨城市)
五浦ハム工場&直売所(高萩市)
- ③第18回グラウンドゴルフ
2025年11月11日(火)
- ④支部研修
2026年2月中旬(予定)

受け止めることもありますが、少しでも病気になる人、目や心を向けることで、少しづつ心がやわらいでいくように感じます。
 絵がみ展に添えられたやさしい言葉と、どこか懐かしさを感じることが、自然の恵みから人へのあたたかさや「自然の恵みを大切にしたい」という気持ちの大切さを、あたかも「地球の恵み」を感じたいと



笠間市立北川根小学校

笑顔があふれ、明日が待たれる学校を

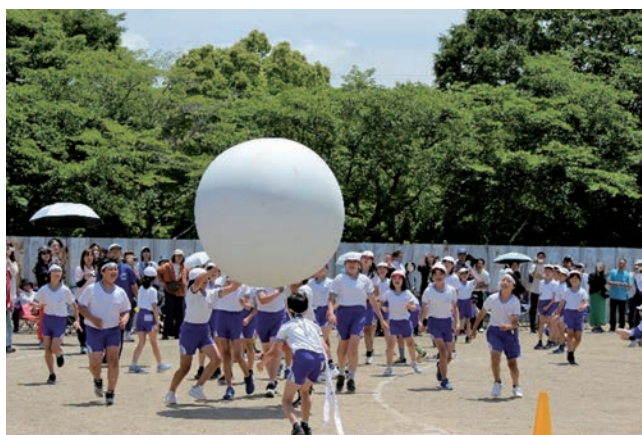


模範年度、北川根小学校では、大規模改修工事が行われ、事故によるけがの無いような経験を積み重ねていきます。

小学校庭の桜が満開の中入学し、まだ上級生がやさしく声をかけ、手を差し伸べ暖かく迎える姿が見られた1年生を迎える会。縦割り班活動では、6年生が中心となり活動内容を自主的に考え、みんな笑顔で楽しく活動することができました。運動会では、1つ1つの競技に真剣に臨み、協力することを、全力で頑張ることの大切さを実感し大きく成長することができ

きましました。スナッグゴルフ部の活動
 においては、地域指導者の協力、動
 6年生を中心に、全国大会に出場し活躍
 応援を受け、全大会に出場し活躍
 しました。

子どもたちは、お互いに協力し助け合
 いながら様々なことにチャレンジし
 し元気に成長しています。明日が待
 ち今後も「笑顔があふれ、明日が待
 たれる学校をつくる」という目標の
 実現に向けて、学校・保護者・地域が
 一体となっており、子どもたちの活動を支
 援し、成長や活躍を応援していきま
 す。



笠間市立友部第二中学校
経験は力なり

英語プレゼンテーション
フオーラムや読書ブリ
オバートルでは、多くの観
客の前でも、自分らしい
豊かな表現力で、堂々と
パフォーマンスをするこ
とができました。

特に5年ぶりに実施し
た「3学年合同体育祭」
へ向けては、生徒会の中
心に熟議を重ね、生徒た
ち自らで新しい行事を創
り上げる経験をしました。

多くの場面で友部二中
生は、自分の頭でしつか
り考えて、自分なりの言
葉や表情で、堂々と表現
し経験を重ねることがで
きました。大きな行事ば
かりでなく、普段の生活
の中でも様々なことにチャ
レンジしています。

今年度前半、友部二
 年生は様々な経験をし
 成長しています。一年
 生は交通安全教室や中
 国語講座、二年生は校
 外学習や職場体験学習
 三年生は京都・奈良へ
 の修学旅行等。総体や
 新人戦、体育祭では、
 仲間と共に全力でプレ
 して、感動
 や嬉しさ、
 悔しさや辛
 さを経験し
 ました。吹
 奏楽コンク
 ルやサマー
 コンサート、



そのすべてが子どもたちの成長の
 基となり、力となっています。まさ
 に「経験は力なり」です。
 今後、経験・体験・学びの場を
 数多く設定し支援することで、子ど
 もたちの成長や活躍を応援してい
 たいと思います。

よく遊び、よく笑い、よく学べ
 エンジョイ二中！

よく遊び、よく笑い、よく学べ
エンジョイ二中！

わが地域

25

長兎路で敬愛された村医者
「加藤東州・鈴木弘庵」

加藤 郡上村(石岡市・旧八郷町)の吉
 川恒善の第二子として生まれ、養子
 となり、その娘を妻として1男4女
 を授かりました。長男が子龍(文吾)。
 私淑して、東洋医学を学び、また漢詩
 や国学を嗜み、国学者小田山田清や
 万葉法師・嵯峨(下村観音寺住職)
 作久良東雄(文政10年、友芝城郡長
 兎路村に移住して、後に鈴木家の養
 子に迎えられ、小児科・産婦人科など
 内科・外科・小児科・調合や伝染
 病の予防に、婦人には堕胎・間引きの
 害を説きました。
 道徳など、家塾を開き、読み書き算数
 を入れました。村の子ども達も超えて
 いれた。門弟は百人を超えて丸
 宗右衛門(寺子屋・安匠、代名主を
 務めた持丸・家・奈良平・安時代安
 駅家比定地・持丸長者伝説)も学び
 ました。
 49歳で逝去。1845(弘化2)年に
 日新塾(茨城郡成沢村・水戸市)の
 加倉井砂山に依頼して墓石を建てま
 した。
 後継者として期待されて、新塾に入門し、

1851（嘉永4）年に21歳で逝去。「東州加藤先生墓」の隣に葬られています。

7（東州の後継者は、1836（天保7）年生まれの弘庵（仁古田村、箱田源治三男）でした。医学を志し、筭間藩医結素庵の鳳鳴館で全身麻酔による外科手術を学びました。師の素庵は、大槻玄沢（仙台藩医・蘭学者）に、また華岡青洲（外科医・紀州）に麻酔による手術を学んでいます。

弘庵は羽黒村（桜川市・旧岩瀬町）で開業していたが、結婚後長兎路村の鈴木（加藤）寿徳（東州）の養子となり、医者（傍ら家塾を引き継いだ）・維新館で地域の子ども達に読み・書き・算数を教えました。

長兎路に居住した東州・弘庵は、地域の医療・教育に尽力し、村民の健康と文化の向上に大いに貢献しました。その後、北川根地区から各方面で活躍する多くの人物が輩出されています。

＊参考文献…「かがやく筭間の先人たち」（改訂版）令和6年筭間市教育委員会。友部図書館など市内各図書館で借りられます。

枝川良雄



東州加藤先生墓・加藤文吾墓
(長兎路塔頭墓地内)

長兎路区 敬老祝賀会

敬老祝賀会

対象者58人中29人が参加して開催

多年にわたり長兔路区に尽力してきた高齢者の長寿を祝福し、広く長兔路区民の老人福祉に対する理解と敬老精神の高揚を促すとともに、高齢者自らの自立生活の向上に努める意欲の増進を目的として、敬老祝賀会を9月15日（敬老の日）長兔路構造改善センターにおいて、実行委員として、区長をはじめ、12人の組総代及び11人の推進委員



編集後記

の方々の協力を得まして、敬老祝賀会を実施したところ、対象者58人、29人の参加をいただき、執り行うことが出来ました。

敬老祝賀会の内容は、米寿を迎えた方には祝状授与及びアトラクションとしてチンドンやさんの余興で場を盛り上げていただきました。

敬老祝賀会を執り行うにあたり、笠間市役所からの交付金及び、社会福祉協議会北川根支部からの助成金をいただき、足りないところは長鬼路区持ち出しで、来られない方にも参加者と同じお祝いの品を届けることができ、今年も盛大に敬老祝賀会を執り行うことが出来ました。

（実行委員長 井野秀男）

(実行委員長 井野秀男)

編集後記
 え、温暖化とはい
 暑すぎた！ 地
 球環境は大丈夫？ アメリカ第一主
 義、日本人ファーストなど極端な言
 動がはびこり世の中もギスギスして
 いる。助け合いの心を広げる活動に
 活路を見いだしたいものです（藤森）

